

県医活動報告

平成29年度 女性医師支援事業連絡協議会（報告）

報告：常任理事 貞永 明美

（大分県医師会男女共同参画委員会委員）

平成29年度 女性医師支援事業連絡協議会 次第

日時：平成30年2月14日(水) 14時～16時30分

場所：日本医師会館大講堂

司会：日本医師会常任理事 今村 定臣

開 会

挨拶

議 事

女性医師支援センター事業ブロック別会議 開催報告
（各ブロック会議の総括や特徴的、先進的な取組の紹介）

●各ブロック代表からの発表

閉 会

平成30年2月14日(水) 日本医師会館大講堂で開催。今村定臣常任理事の司会で開会。横倉義武会長のご挨拶の後議事に入った。

議事 女性医師支援センター事業ブロック別会議開催報告 （各ブロック会議の総括や特徴的・先進的な取り組みの紹介）

- | | | | |
|----------------|--------|--------------|---------|
| ① 北海道・東北 | 岩手県医師会 | 女性医部会幹事 | 梅邑 明子先生 |
| | 山形県医師会 | 常任理事 | 神村 裕子先生 |
| ② 関東甲信越・
東京 | 長野県医師会 | 常任理事 | 飯塚 康彦先生 |
| | 長野県医師会 | 勤務委員会委員 | 黒川 由美先生 |
| ③ 中部 | 石川県医師会 | 理事 | 轟 千栄子先生 |
| ④ 近畿 | 大阪府医師会 | 理事 | 笠原 乾司先生 |
| ⑤ 中国・四国 | 徳島県医師会 | 男女共同参画委員会委員長 | 岡田 博子先生 |
| ⑥ 九州 | 大分県医師会 | 男女共同参画委員会委員 | 中田 健先生 |

報告後、質疑応答および総合討論。

① 北海道・東北ブロック

梅邑明子先生より北海道、青森、秋田、宮城、福島、岩手の各県医師会の取り組みについて報告。それぞれ医学生、若手医師への働きかけ（キャリアサポートセミナー、懇親会）、女性医師勤務環境アンケート、行政（県）への女性医師支援事業の働きかけなど、東北全体の医師不足の地域特性と共通の課題があった。

神村裕子先生より山形県医師会の取り組みを報告。勤務医部会のなかに、県からの委託事業で専用電話回線での「山形県女性医師支援ステーション」の活動が報告された。医師の就労支援の際の医師会の役割の大きさ、そのための組織強化を指摘された。

② 関東甲信越・東京ブロック

飯塚康彦先生より病児保育施設の意見交換について報告。茨城県医師会の県、関係市町村及びファミリー・サポートセンターと連携して行っている、子どもの一時預かり等、女性医師就業支援事業について解説。（医師保育支援事業）

また黒川由美先生より長野県の病児等送迎及びベビーシッターサービス支援事業を報告（勤務医療機関が人件費、交通費等の経費を支払う、その経費を県がサポート）

③ 中部ブロック

轟千栄子先生より富山県医師会の女性医師コーディネーターによる「病院巡回相談」（社会保険労務士を伴う）、富山大医学部3年生への講義、岐阜県医師会の医学生のための在宅医療体験学習事業等が好評である事、三重県医師会の「女性医師が働きやすい医療機関認証制度」の実績などを報告。医師会の就労支援の役割の大きさと、組織強化（医師会加入率アップ）が重要と指摘。

④ 近畿ブロック

笠原乾司先生より兵庫県医師会の施設長・勤務医への意識調査・環境調査、滋賀県医師会の医学生・研修医サポート事業、育児支援事業、奈良県医師会の県立医科大の女性医師支援の取り組み、和歌山県医師会の女性医師センター制度（助言者による相談事業）など各県医師会の取り組みを報告。

⑤ 中国・四国ブロック

岡田博子先生より徳島県医師会の介護問題への取り組み（「育児と介護に関するアンケート」調査実施により、「介護と仕事の両立に関する講演会」の開催など）の報告の他、山口県医師会「保育サポーターバンク」の運営など各県医師会の取り組みを紹介。

⑥ 九州ブロック

中田健先生より、各県医師会の活動報告を概説。

まず九州は福岡の4大学（医学部）以外は各県とも1大学で、連携が取りやすい事。宮崎県医師会などは「未来の医療を語る全員交流会」に宮崎大学医学部医学科5年生の約9割が参加（知事、医師会長が直接交流）。特徴的な取り組みとして熊本県医師会の「お留守番制度」を紹介（無理なく復職したい人と、かかりつけ医が訪問診療に育問の外来診療を担ってもらう

病院を紹介する制度で、就労時間中の保育はメディッククラブで無料。)

その他各県の活動報告で、キャリアサポートブックの作成・配布など、キャリア支援に前向きな病院の増加、病児施設訪問、大学との連携など紹介。

その後の質疑応答・総合討論では、病児保育に関する事、病児の送迎支援、「女性医師が働きやすい医療機関」認証制度などに質疑が多かった。

また九州ブロックからの「お留守番制度」はこれからの在宅医療を支える意味でも、女性医師支援や「働き方改革」のフレキシブルな制度の見直しでも有意義な制度ではとの意見があった。

